

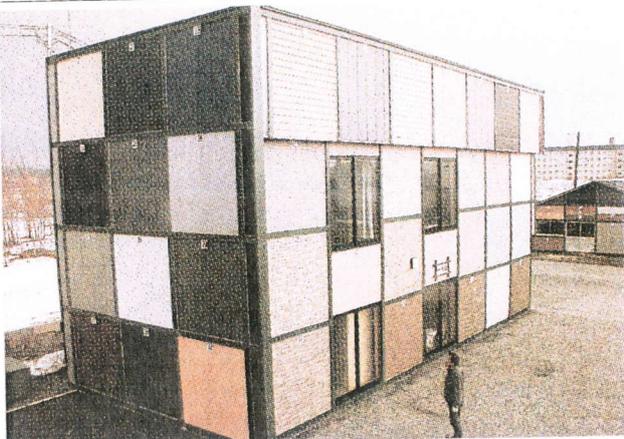
211種類の外壁ずらり

しんせつ 滝川に展示場

【滝川】経営破綻した住宅メーカー、木の城たいせつの住宅リフォームのため元社員らにより設立された「しんせつ」(滝川、三浦清司社長)が25日、道内最大規模の外壁展示場などからなる木の城見本市場を滝川市泉町286に開設する。

展示場は、一枚1・8坪四方で色や柄の異なる211種類の外壁を倉庫外側などに張り付けた。木の城たいせつ時代の19種類から大幅に増加。従来こだわっていた金属外装材から、一般的な窯業外装材やタイルにも品目を広げた。

またショールームも隣接させ、壁のクロスや床マット、キッチン、風呂など約100品目500点を展示。三浦社長は「無落着、百年住宅などの独自仕様は受け継ぎながら、若い世代の好む外壁や、お年寄りのための風呂場の



デザインも色合いもさまざまな外壁が展示された木の城見本市場

段差解消などの要望に応えたい」と意欲的だ。道建築技術協会の長谷川寿夫専務は「これだけの規模のものは道内になく、見た人も確認しやすい」と言う。しんせつは「木の城」

の商標を既に取得、2009年度の売り上げは3億3450万円。問い合わせは同社80125・26・5096へ。